

日韓学術文化交流事業訪韓団 派遣事業の記録

1. プログラム概要

【目的】日本全国から選抜された教育関係者を派遣し、教育現場をはじめとする各種視察、関連講義聴講、関係者との懇談等を通じて、今後の日韓間の相互理解と信頼関係増進の基盤強化に寄与することを主目的とする。

【参加者】 プレプログラム（オンラインによる事前学習） 日本の教育関係者 31 名
派遣プログラム 日本の教育関係者 31 名

【訪問地】 派遣プログラム ソウル特別市、京畿道城南市・金浦市・坡州市 31 名

【日程】

■ プレプログラム（オンライン事前学習）：

8月5日（土） オリエンテーション（プログラム説明）

■ 派遣プログラム：

8月20日（日） 仁川国際空港より入国、訪韓時オリエンテーション

8月21日（月） 歓迎式

【講義聴講】「SURVIVAL KOREAN、暮らしの韓国語」

【視察】ソウル大学奎章閣、現代モータースタジオソウル

8月22日（火）【学校訪問・交流】ソウル工業高等学校（学食体験含む）

【視察】昌徳宮、実感体験型韓国観光広報館「HiKR Ground」

8月23日（水）【学校訪問・交流】ソウル大林小学校（学食体験含む）

【視察】国立中央博物館、国立ハングル博物館

8月24日（木）【視察】非武装地帯（DMZ）、紫雲書院

8月25日（金）【視察】国会議事堂、汝矣島漢江公園、徳成女子大学、成果報告会

8月26日（土）仁川国際空港より出国

2. 記録写真



2023年8月21日【講義聴講】
「SURVIVAL KOREAN、暮らしの韓国語」



2023年8月21日【視察】ソウル大学奎章閣

	
<p>2023年8月22日【学校訪問・交流】 ソウル工業高等学校</p>	<p>2023年8月23日【学校訪問・交流】 ソウル大林小学校</p>
	
<p>2023年8月23日【視察】国立中央博物館</p>	<p>2023年8月24日【視察】非武装地帯（DMZ）</p>
	
<p>2023年8月24日【視察】紫雲書院</p>	<p>2023年8月25日【視察】国会議事堂</p>

3. 参加者の感想（抜粋）

◆ 日本 教員

韓国の学校を視察し、実際に生徒と会話をしたり、児童と授業をしたりすることができて、日本に興味をもってくれていることを実感し、うれしく思いました。

◆ 日本 教員

韓国の高校生との交流は大変印象に残っています。深く感動し、私も彼らに恥じないように職業にも語学にも勉強を続けていきたいと思いました。彼らの日本への関心を非常にありがたいと感じています。日本側の子どもたちにも同じように親しみある関心をもつ子が育まれるよう、従事していきたいです。

◆ 日本 教員

ソウル大林小学校での模擬授業体験が印象深かったです。授業者ではありませんでしたが、大変勉強になりました。児童らが授業を受ける様子や学校での様子を垣間見ることができました。今後機会があれば模擬授業を実施したいと思い、私の教科を生かして日本の文化を伝えるならば、どのようなことができるのかについて考える機会にもなりました。

4. 受入れ側の感想（抜粋）

◆ 徳成女子大学（韓国側実施協力機関）

新型コロナウイルスの感染拡大以降、初めて実施する日本の教員訪韓事業を無事に終えることができ、安堵しています。韓国の文化、言語、産業関連の視察や体験等を通じて、日本の教員が韓国の過去と現在の文化を理解し、また、学校訪問や交流を通じて、韓国の教育現場への理解、ひいては両国の教員間の人的ネットワークの形成に役立つことができ、感慨深く感じています。今後も両国間における教員や学生の交流が活発に行われ、本事業がさらに発展していくことを期待しています。

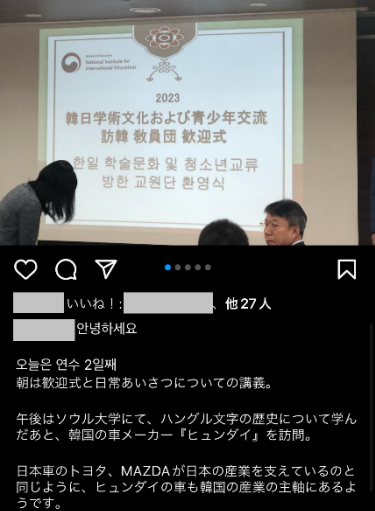
◆ ソウル工業高等学校

日本の教員らと様々なテーマについて対話しながら、日本の教育がどのようなものか理解することができました。日本の文化についても様々な話ができ有意義でした。個人的には、今回の訪問受け入れのために、一生懸命準備した日本語の実力を発揮することができてうれしく思いました。韓国人が単なる旅行地として日本を好んでいるのではなく、日本人や日本の文化を好きな人が多いということを伝えたところ、先生方が喜んでくださりありがたかったです。私も日本が好きな韓国人の一人として、今回の受け入れに携わることができて感慨深かったです。このような機会が頻繁にあればと期待しています。

◆ ソウル大林小学校

模擬授業は本校の児童らが大変喜んでいました。日本の先生方にも良い経験を提供できたと思います。特に、6月に訪日団として日本を訪問した韓国の教員と訪韓団の教員らが一緒に本校周辺を視察したことは有意義だったと思います。本校に到着した時、日本の先生方は緊張した面持ちでしたが、帰る際は名残惜しさが感じられる表情に変化したと感じました。今後もオンライン等を通じた交流が続いていくことを願っています。

5. 参加者の対外発信（抜粋）

	<p>訪韓4日目 ソウル大林初等学校訪問。 模擬授業を行い、日本の文化について授業をした。 韓国と日本の学校での違いを知った。 学校施設参観と給食体験。韓国の教師との交流。 日本の学校との差を感じた。 午後は国立中央博物館とハングル博物館見学。 韓国の歴史やハングルの歴史を学んだ。 カリグラフィー体験。韓国語を書く楽しさを学んだ。</p> 
<p>2023年8月21日（Instagram） （前略）ソウル大学でハングルの歴史について学んだ後、現代モータースタジオソウルを訪問しました。日本の「トヨタ」や「マツダ」が日本の産業を支えているのと同様に、「ヒュンダイ」の車も韓国の産業の主軸にあると感じました。</p>	<p>2023年8月23日（Instagram） ソウル大林小学校訪問。模擬授業では日本の文化について授業を実施しました。（中略）学校施設の参観や学食体験、韓国の教員との交流を通じて、日本と韓国の学校の相違点を知る機会になりました。</p>

6. 報告会での訪日成果とアクション・プラン発表

（訪問地：ソウル特別市、京畿道城南市・金浦市・坡州市）

	
---	--

【訪韓中の学び】

- ・ 韓国の教育予算は全体の約 15% を占めており、学校施設が充実している印象を受けました。学習に集中できる環境の重要性を再確認しました。
- ・ 小学校訪問時、児童に英語が通じたり、児童らが外国人である私たちと積極的に交流を図ろうとしたりする姿を見て、新しいものへの学びに対する高い意識が感じられました。

【テーマに関する訪韓中の発表】

- ・ 日本の児童や生徒らには「教科書を通して見る韓国」以外の姿も授業の中で伝えていくことで、「違いを認め合える人」に育ててほしいです。
- ・ 今の子どもたち同士の友好的な状況が続いていくことで、平和な世界が実現することを願っています。

【アクション・プラン】

- ・本プログラムでの学びについて、「総合的な学習（探求）の時間」の中で人権教育や国際理解等に結び付けて活用していくとともに、所属学校内で研修を実施し、教員間で共有します。
- ・韓国传统文化や休戦中であるということ子どもたちに伝えるとともに、人対人として向き合い、学び続けていくことの大切さを伝えていきます。
- ・本プログラムを通じて知り合った韓国の教員との縁から、児童や生徒同士のオンライン交流を実施し継続していくことで、将来的には学校間の姉妹締結を目指します。
- ・来年度以降、韓国の教員を対象とした訪日団が実施される際、一行の視察受け入れ先として尽力したいです。

実施団体名：公益財団法人日韓文化交流基金